

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 22, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun., 2016



ダイヤモンド

Diamond

KPM-NL 380

ロシアサハ共和国ウダーチヌイ鉱山産
中村 淳 氏 (スタジオ KJ) 撮影

やました ひろゆき

山下浩之 (学芸員)

写真は岩石の中に含まれているダイヤモンドです。右側に写っている黒い部分が、キンバーライトと呼ばれる火山岩の一種です。ダイヤモンドは、マントルの深いところでできた、このキンバーライトマグマの上昇によって地表までもたらされます。

天然に産出するダイヤモンドの形には、六面体、八面体、十二面体のものがあり、このうち八面体のものが最も多く産出します。写真のダイヤモンドも八面体です。しかし、この写真をよく見ても八面体に見えません。それは表面がでこぼこしているためです。一つ一つのでこぼこは三角

形をしています。この三角形はトライゴン (trigons) と呼ばれ、八面体のダイヤモンドでは普通に見ることができます。トライゴンができる理由は、八面体のダイヤモンドが成長していく途中でできるという説と、ダイヤモンドの表面が溶けてできる説との二つがあります。また、ダイヤモンドの中に黄色い粒が見えます。これはダイヤモンドができていく途中で、周りにあったマントルをつくる鉱物を取り込んだものです。この鉱物は、ダイヤモンドができたときの環境を知る有力な手がかりとなります。